

——著書である『カラオケ進化論』の中で「西洋は楽器やダンスの、日本は歌唱の文化」と対比しています。面白い視点ですね

前川 それは統計的、民族学的に立証されたわけではないんですが、いろいろな学者によると、日本人は戦後、貧乏だったから唱歌だけの教育で、西洋は楽器を使って音楽を学んできたという違いがあるというん

カラオケ博士の研究ノート

④

です。さらに、西洋社会では教会でコーラスをする。日本は宴会でも個人で歌う。その差が、民族、文化の違いの表れではないかと思うのです。

——カラオケ機の企画を通してベンチャーとの交流もあつたそうですね

前川 昭和50年代、新規事業のためにベンチャーを探してシリコンバレーを走り回りました。いろんな出

関西外国語大教授

前川洋一郎さん

会いがありました。その中に、当時学生だった孫正義さん（ソフトバンク社長）がいました。彼もベンチャーをやっていたんです。それで一緒に、音声合成学習機を開発する事業を始めました。まあ、今でいう電子手帳、電子翻訳機というところでしょうか。

時期が早かったのか、この事業はあまりうまくいきませんでした。カセットテープの次はデジタル技術や半導体、と考えていたのですが、その前に通信技術やDVDなどのイノベーションが先に到来して、それに翻弄されてしまったのです。

——ところで、生まれは大分で、ずっと大阪にお住まいですね

前川 友人からよく言われるんですよ。「お前の年賀状は60年間ずっと変わらないなあ」と（笑）。東京勤務は2年間で、その間は単身赴任でした。偶然にも転勤は少なかったですね。

時代に翻弄された孫さんとの開発

——その前川さんの目には、関西がいま抱える問題は、何であるかと映りますか

前川 大阪の人は昔話や昔自慢が好き。自虐趣味もあります。そんな自意識に漬かりすぎているような気がします。関西は大阪だけではなく多様です。大阪、京都、神戸がそれぞれ特色を生かしていったらいいと思います。「三本の矢」であるとしたら、無理に一本にはなりません。

東京は一極の文化ですが、「関西は東京と同じ生き方をしない」というのが大事だと思います。

——東京に対抗しても仕方がないと

前川 今さら「関西復興」などと言ってみても始まらない。すべて東京に集

中している国なんですから。昔はこうじゃなかったんですけど、こうなった以上、一ローカルとして、新たな道を歩み始めた方がいい。例えば米国のポストン、サンフランシスコみたいに、ローカルでも素晴らしい街を目指せばいいと思います。

——橋下徹知事の府政についてはいかがですか

前川 若いこともあるのでしようが、政策提言もアイデアも素晴らしいと思います。ただし知事の評価というものは、将来の子孫の幸せと歴史が決めるべきです。その前に勝手に評価を下してはいけないと思います。

あとは、時間をかけるべきことと、直ちにすべきことを判断するため、もっと人の意見を聞く姿勢を持たなければさらに立派だと思えます。期待したいですね。

（聞き手 南昇平）



昭和54年、米・カリフォルニア州のミステリースポットで、当時カリフォルニア大パークリー校の学生だった孫正義さん（中央）らと。左から2人目が前川さん